

2024年3月7日 [2024年3月9日一部訂正]

Press Release

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりののはらっぱ」 [メイン企画]

弘前エキスチェンジ#06 しらかみのぞきみこう「白神視見考」

参加作家：狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK.

会期：2024年4月6日（土）－9月1日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館、HIROSAKI ORANDO、ギャラリーまんなか



参考図版 狩野哲郎《21の特別な要求》2021年
Courtesy of the artist



参考図版 永沢碧衣《村景》2019年
©かみこあにプロジェクト（秋田）

弘前れんが倉庫美術館では、2024年4月6日（土）から9月1日（日）まで、弘前エキスチェンジ#06「白神視見考」と題して、白神山地をテーマにリサーチ・プロジェクトを実施します。本企画は、当館を含む青森県内5つの美術館・アートセンターを中心に行われる「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」[会期：2024年4月13日（土）－9月1日（日）]のメイン企画の一つであり、狩野哲郎（かのう てつろう）、佐藤朋子（さとう ともこ）、永沢碧衣（ながさわ あおい）、L PACK.（エルバック）の4組のアーティストたちが、それぞれの視点で、作品展示をはじめワークショップやイベントなどを実施します。

白神山地とは、青森県南西部から隣県・秋田県西北部にまたがる山岳地帯の総称で、このうち原生的なブナ林で占められている区域（約17,000ヘクタール）が、1993年にユネスコにより世界自然遺産として登録されました。白神山地は多種多様な動植物の生息・自生が保たれている場でありながら、弘前市を含む津軽平野（青森県西部）を流れる岩木川の源流の地でもあり、人々が生活する市街地とも地続きの土地です。本企画では、参加作家たちと共に古くから人々の生活を支えてきた川をたどり、その源となる山々の姿に目を向けることで、世界遺産登録前後もそこに息づく動植物の存在や、山村の営みの変遷、近代化といった山とともに生きる人々の生活の変化にも考えを巡らせます。

参加作家の狩野哲郎は、白神山地が世界自然遺産となったことで、それまでそこに暮らしていた人や動物にどんな変化が生まれたのかを探り、立体作品を中心に美術館内外で展開します。永沢碧衣は、自身の狩猟経験をもとに制作した絵画作品を展示します。佐藤朋子は会期を通じて来場者をゆるやかに巻き込みながら、長期的なリサーチの過程を公開しアップデートし続けていきます。L PACK.は、弘前市では馴染み深い夏の祭りである「宵宮」に触発されて、展覧会期末の3日限定のイベントとして体験型作品を公開します。

私たちは人間同士の社会的環境だけでなく、自然環境とも相互に関係し合いながら存在しています。人間と自然という二項対立的な見方や既存の価値観を脱し、新たな関係性の構築を試みる作家たちの活動は、人間中心ではない世界の捉え方を提示し、持続可能な社会に向けて、他者との共存の多様なあり方を想像させます。固定概念をくつがえし、感覚を拡張するような複数の活動を体感することで、いつもの風景が異なるものに見えてくるきっかけとなることでしょう。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

見どころ

1. 白神山地をきっかけに複数の視点が交流する場

2023年に、白神山地は世界自然遺産に登録されて30周年を迎えました。本プロジェクトの参加作家たちは、白神山地の玄関口といわれる西目屋村でのリサーチや関係者によるインタビューなどを経て、会場に合わせた作品を制作し展示します。なかでも佐藤朋子は、現在拠点としている台湾と韓国、そして弘前、白神山地を巡り、会期中を通して取り組むリサーチプロジェクトを《「向こう側」研究会》と名付け、その過程を会場にて随時更新し公開します。白神山地を入口に、近代化による山村の営みの変遷や、自然との共存の道筋を知ること、人間の生活環境の転換について考え得る複数の視点を提示します。会期を通じてさまざまな場面で、作家と来場者、あるいは来場者同士の視点の交換・交流を体感できる場を創出します。

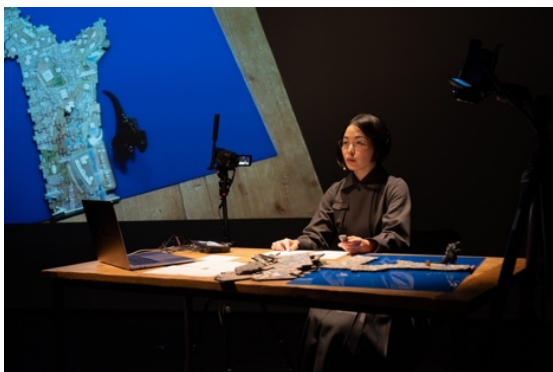
2. まちなかにひろがる作品展示

狩野哲郎による作品は美術館のほかに、美術館建物前の土淵川吉野町緑地、弘南鉄道中央弘前駅舎内の展示スペース（ギャラリーまんなか）、HIROSAKI ORANDOのカフェスペースなど、弘前市内の数か所に展示されます。狩野哲郎は既製品や自然物などを組み合わせて空間を構成し、動物たちにとって価値がある彫刻かどうかを考えることで、人間とは異なる視点へのアプローチを試みます。狩野の作品は人間にとっては美術作品でありながらも、同時に動物たちの世界認識を知る手がかりとなります。本企画では、モバイル型の作品や、鳥や虫など人間以外の生物にとっての集合住宅のような作品を制作します。来場者は街を周遊しながら、弘前の風景に溶け込む作品との出会いを通じて、見慣れた風景がいつもと違って見えてくることでしょう。

3. 会期最後の3日間に体験型作品の屋外イベントを開催

2024年8月30日（金）から9月1日（日）の3日間限定で、美術館建物前の緑地を会場に、「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」共通企画の栗林隆《元気炉》の展示とあわせて、L PACK.による体験型作品《いっしょくたにへば たげめぐなるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》をイベント形式で公開します。

L PACK.が発表するのは、弘前市では馴染み深い夏の祭りである宵宮や、路上で見かける移動販売のアイス屋から発想された屋台です。その屋台で提供される一風変わったメニューを注文すると、思いがけないコミュニケーションが生まれるかもしれません。



参考図版 佐藤朋子《オバケ東京のためのインデックス 序章》
2021年 ©シアターコモンズ'21 撮影：佐藤駿



狩野哲郎《系（水平の車輪、マーブル、集中線）》2024年
Courtesy of the artist

作家プロフィール

狩野哲郎 KANO Tetsuro [展示]

1980年宮城県生まれ、神奈川県在住。2007年東京造形大学大学院造形研究科修了。2011年狩猟免許（わな・網猟）取得。生物から見た世界/狩猟/漁業/測量などを軸として国内外でリサーチ/滞在制作を行う。美術館のライブラリースペースや街中各所に作品を展示し、白神山地が世界自然遺産となったことで人や動物にどんな変化が生まれたのか、青森のさまざまな自然や文化との交流を通じて探る。



Photo: Takashi Arai

佐藤朋子 SATO Tomoko [リサーチ]

1990年長野県生まれ、神奈川県在住。2024年は5月まで台湾、10月まで韓国を拠点にしている。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。レクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行っている。「山村の近代化・人の営み・歴史」をキーワードに、弘前を訪れ、リサーチの成果を随時公開。



Photo: 大野隆介

永沢碧衣 NAGASAWA Aoi [展示]

1994年秋田県横手市生まれ、同地在住。2017年秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻卒業。秋田に在住しながら狩猟免許（第一種銃猟、わな）を取得し、東北の狩猟・マタギ文化に関わりながら“生命の根源”を辿り、“人と生物と自然”の関係性を問う絵画作品を制作している。「山の命・山の狩猟」をキーワードに、釣りや狩猟といった、作家の実体験に基づいて制作された絵画作品の展示と、自身の生活と密接な関係にある制作の様子を紹介するトークイベントを実施。



L PACK. [イベント]

小田桐奨（1984年青森県平川市生まれ）と中嶋哲矢（1984年静岡県生まれ）によるユニット。静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。展覧会期末の3日間、宵宮や屋台など地域の身近な文化から着想された体験型の作品を発表予定。



Photo: Koichi Tanoue

関連プログラム

狩野哲郎 アーティストトーク＆ツアー

作家・狩野哲郎とリサーチ協力者によるトークと美術館周辺の館外展示の解説ミニツアーを行います。

出演 | 狩野哲郎、東信行（弘前大学農学生命科学部 教授）、ムラノ千恵（弘前大学農学生命科学部 助教）

日時 | 2024 年 4 月 7 日（日）14：00－15：30（受付開始 13：30）

会場 | 展示室 ほか

料金 | 無料（要観覧券）

定員 | 15 名

申込み | 事前予約優先・先着順 WEB（Peatix）<https://20240407tour.peatix.com/> 電話 0172-32-8950

※申し込み受付開始 | 2023 年 3 月 16 日（土）10：00－

佐藤朋子×永沢碧衣 アーティストトーク《「向こう側」研究会》公開勉強会

出演 | 佐藤朋子、永沢碧衣

日時 | 2024 年 6 月 1 日（土）14：00－15：30（受付開始 13：30）

会場 | スタジオ B

料金 | 無料

定員 | 30 名

申込み | 事前予約優先・先着順 WEB（Peatix）<https://20240601talk.peatix.com/> 電話 0172-32-8950

※申し込み受付開始 | 2023 年 3 月 16 日（土）10：00－

学芸スタッフによる「白神視見考」解説ツアー

日程 | 2024 年 5 月 5 日（日・祝）、6 月 16 日（日）、7 月 14 日（日）、8 月 11 日（日・祝）

時間 | 11：00－11：30

料金 | 無料（要観覧券）

定員 | 10 名

申込み | 不要

集合場所 | 1 階 展示室入口（開始 5 分前までにお越しください）

「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」共通企画

栗林隆《元気炉》× L PACK. ほか

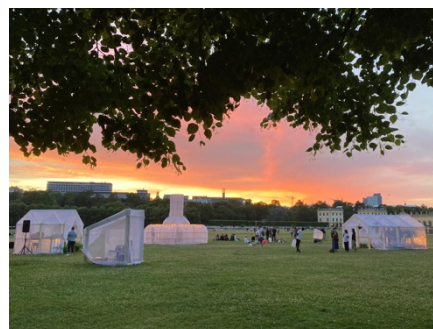
《いっしょくたにへば たげめぐなるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》

「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の共通企画である栗林隆《元気炉》の展示と、L PACK.による体験型作品をお楽しみいただけます。

日時 | 2024 年 8 月 30 日（金）－9 月 1 日（日）

会場 | 土淵川吉野町緑地（弘前れんが倉庫美術館前）

※イベントの詳細は決まり次第、当館ウェブサイトでお知らせします



栗林隆《元気炉》2022年
（《蚊帳の外》ドキュメンタ15、ドイツ・カッセル）より
Photo: Rai Shizuno

「弘前エクステンジ」について

「弘前エクステンジ」は、弘前出身あるいは弘前ゆかりのアーティストや、国内外で活躍するアーティストに、この地域の歴史や伝統文化に新たな息吹を吹き込んでもらうことを目指して、作品制作や調査研究のほか、地域コミュニティと関わるプロジェクトなどを行ってきました。展示による作品発表だけでなく、トークやレクチャー、ワークショップといったさまざまな参加型プログラムも開催します。「エクステンジ=交換」という名前が示すように、本プロジェクトはローカル（地域）とグローバル（世界）、つくり手と地域の人々そして鑑賞者といった異なる視点が交差し、ふれあい、交換される場を生み出すことで、地域の創造的魅力を再発見することを目指します。

開催概要

- | プロジェクト名（日）： 弘前エクステンジ#06「白神観見考」しらかみのぞきみこう
- | プロジェクト名（英）： HIROSAKI EXCHANGE #06 Bearing Witness to Shirakami
- | 会期： 2024年4月6日（土）－2024年9月1日（日）
※「ギャラリーまんなか」での展示期間
4月6日（土）－4月23日（火）、5月8日（水）－9月1日（日）
- | 会場： 弘前れんが倉庫美術館（弘前市吉野町2-1）
HIROSAKI ORANDO（弘前市百石町47-2）
ギャラリーまんなか（弘前市吉野町1-6 中央弘前駅構内）
- | 開館時間・休館日： 弘前れんが倉庫美術館 9：00－17：00 火曜休館
※そのほかは各会場に準じる（詳細は決まり次第、当館ウェブサイトでお知らせします）
- | 観覧料： 無料
※美術館内展示室のみ「蜷川実花展 with EiM：儂くも煌めく境界」はかな きらの観覧券が必要
- | 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- | 特別協力： 山口積恵
- | 協力： 永井温子（株式会社Ridun 代表取締役）、弘前シードル工房 kimori
- | 後援： 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、エフエム青森、FMアップルウェーブ、弘前市教育委員会
- | 一般問合せ： TEL：0172-32-8950
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS： Instagram：@hirosaki_moca
X：@hirosaki_moca
Facebook：@hirosaki.moca